

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：くっくおさんぽ保育園 大倉山	種別：認可保育所
代表者氏名：土田 祐介	定員（利用人数）：50（利用者39名）名
所在地：〒222-0037 横浜市港北区大倉山5-39-23	
TEL：045-542-7236	ホームページ： <a href="http://kukkuosanpo.com/">http://kukkuosanpo.com/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2005年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人くっくあゆみの会	
職員数	常勤職員：12名 非常勤職員：9名
専門職員	（専門職の名称） 園長：1名
	主任：1名 保育士：12名
	保育補助：2名 事務：1名
	看護師：1名 栄養士：2名
	調理員：1名
施設・設備の概要	保育室：5室 トイレ：3ヶ所
	事務室：1室 調理室：1室
	休憩室：1室 子育て支援スペース：1室
	園庭：屋上遊技場(3階)・どろんこ広場（1階）

③ 理念・基本方針

【理念】

一人ひとりが尊重され、その人らしく輝き生きていくことができる社会を創造することに貢献したいと考える。

常に現場の状況を第一とし、スタッフ一人ひとりが子どもの人権を守り、自立への援助を図ることを共有し、理解しあえる運営をしていくことを理念とする。

【保育方針】

遊びの中で身につけるたくさんの事を大切にする。

発達の節目を丁寧に見守る。

子どもの健やかな育成を願い、保護者の就労を支援していく。

地域の子育て家庭を支援する。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

園の保育目標にあるように、たくさん遊び、経験を積み、自分の気持ちを表現する力を育むことを大切にしながら日々の保育を行っています。

園名に掲げている通り”おさんぽ”を活動の中心に据え、専門の指導者による描画活動（4，5歳児）、リトミック、異年齢保育活動、クッキングなど様々な活動を実践しています。

また姉妹園と連携しながらの運動会や遠足なども行い、保育士も子どもと共に楽しむことをモットーにしています。

子育て支援活動では園庭解放の他、人形劇の開催やベビーマッサージ、当園園児と共

にリトミック活動への参加を企画・実践しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和6年5月23日（契約日）～ 令和7年1月29日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（令和1年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)職員同士の結束が固く、より良い保育を目指しています

法人の体制変更をきっかけに新たな体制を構築して、子どもに最善の保育を提供するためには何をしたら良いか、保護者にどのように接するか、試行錯誤を繰り返しながらも、一步一步を力強く進めていく環境と結束力が備わっています。

2)子どもが食に興味・関心を持つ環境を整えています

1ヶ月の給食の献立は、人気の高いリクエストメニューを除き毎日違うものを提供しています。地域色や国際色豊かなメニューが登場して、子どもたちのわくわくが食育へと繋がります。園独自の取組として、栄養士から職員への給食アンケートを毎月実施して次月へと反映する仕組みを構築し、食べることに関心を寄せる給食の提供に繋がっています。

3)透明性に優れた新たな園運営の確立が期待されます

理事長及び法人内3保育園長が参加して運営ミーティングを実施し、経営状況や園運営の現状を話し合い、課題を掌握し今後の取組を検討しています。運営ミーティングの内容・課題は必要の都度、職員会議等で職員に報告し周知しています。園の運営上の課題を把握し具体的な取組を進めて行く過程において、職員の意見を聞いたり、職員同士の検討の場を設定するなどの組織的な取組が期待されます。

4)職員育成に向けた目標管理制度の実施が期待されます

職員一人ひとりの育成への取組の一環として、目標管理制度を導入することが期待されます。職員は主体的に自らの保育知識・技能の向上を目指し、自身の年間取組目標を設定して推進し、園長・主任は期首・中間・年度末に職員と面談し、取組内容・状況を確認・支援して、職員の専門技術の向上に繋げることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

当保育園としては令和元年度以来の第三者評価受診となりました。コロナ禍や法人体制の再編等、園としては過渡期を迎えた中での受診ということで、運営面ではいくつかの項目で課題を残しましたが、「現在出来ているところ、改善する際の観点」を共に考えて頂きながらの調査だった為、漠然としていた今後の改善点が具体化されていく過程が大変有意義でした。

調査前の自己評価では出来ていない項目ばかりが目立ってしまい、前途多難を目の当たりにした思いでしたが、当日の調査では項目ごと掘り下げながら、出来ているところを抽出していく作業を丁寧に積み重ねることで、自信の回復を感じながら課題に対して前向きに捉えていけるようにして下さいました。

保育の項目では職員一同がグループ事に一つ一つの項目を検討し、普段行っている保育を論理・評価的な面で捉える機会となりました。また、子どもの発達を捉えて援助していく上で職員間での連携や地域や様々な人との関わりの大切さを再確認することができました。

特に地域に根差した活動という点ではコロナ以来、縮小したままとなっているものをこれから現場と法人が一体となって広げていくことがテーマなので、職員だけでなく

保護者の皆様と共に協働しながら行える催し、働きかけに力を入れていきたい所存です。

運営面では理念にある通り理事、職員が“一人ひとりが尊重され、輝き生きていける社会の創造に貢献する”ことを共有し、理解し合える運営を目指すことを再確認しながら、創造的な協調性を有した組織づくりに努めて参りたいと考えます。

この度、ご教示頂いたことを基に、課題に向き合いながら社会福祉施設としての役割を全うできる保育園を目指していきます。ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり